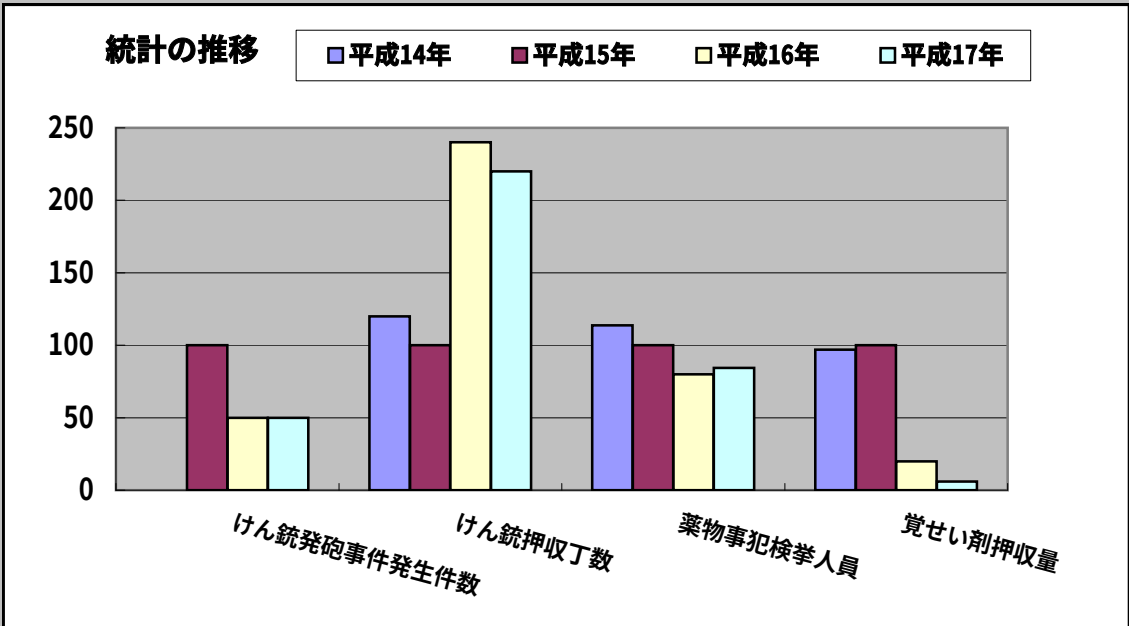


【所属】	組織犯罪対策課	【コード№】	31
------	---------	--------	----

業務名	銃器・薬物犯罪対策の推進
-----	--------------

○業務に関する統計

項 目	統 計 の 推 移				
けん銃発砲事件発生件数	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	単位
	0	2	1	1	件
けん銃押収丁数	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	単位
	6	5	12	11	丁
薬物事犯検挙人員	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	単位
	239	210	168	177	人
覚せい剤押収量	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	単位
	613	632	126	37	g



<グラフは、平成15年を100とする指数で表した。>

○業務の主なコスト

№	事業名	平成17年度事業費(千円)	平成18年度事業費(千円)
1	銃器総合対策強化費	1,848	1,793
2	薬物事犯対策費	208	174
3			
4			
5			
6			
7			
8			
合 計		2,056	1,967

○平成17年の取組み

- けん銃発砲事件など銃器使用犯罪に対する県民の不安を解消するため
 - ・ 暴力団の武器庫事犯等組織的なけん銃隠匿事犯の摘発強化
 - ・ 税関、海上保安庁等との連携によるけん銃密輸・密売事犯の摘発強化
 - ・ 銃器捜査力の強化

など各種対策の一層の推進を図った結果、暴力団幹部等からけん銃11丁を押収した。

- 薬物犯罪組織の壊滅、「第三次覚せい剤乱用期」の早期終息を目指し、
 - ・ 暴力団、イラン人等来日外国人による組織的密売事件の検挙
 - ・ 税関、海上保安庁等との連携による水際対策の強化
 - ・ 末端乱用者の徹底検挙

など各種対策を強化した結果、薬物事犯により177人（前年比＋9人）を検挙したほか、覚せい剤37g（前年比－87g）を押収した。

○課題と平成18年の取組み

●銃器・薬物犯罪は、組織化、国際化、広域化が一層進むとともに、犯行の手段・方法の悪質・巧妙化が一層顕著となっていることから、情報の一元管理を徹底し、統一的、戦略的な組織犯罪対策を行う中で、

銃器犯罪については、

- ・ けん銃等銃器事犯の摘発強化
- ・ 税関・海上保安庁等他の取締機関との連携活動の強化
- ・ 県民の理解と協力を確保するための積極的な広報活動

薬物犯罪については、

- ・ 薬物犯罪組織の壊滅に向けた摘発強化
- ・ 末端乱用者の徹底検挙
- ・ 税関・海上保安庁等他の取締機関との連携による水際対策の強化

などの各種対策の一層の推進を図り、県民の安全・安心を確保する。